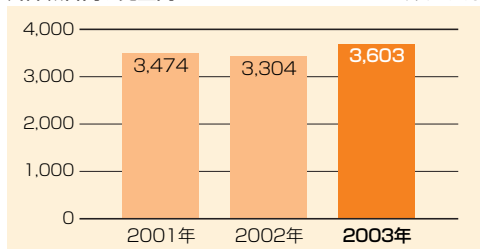


## ● セグメント別概況(連結) ●

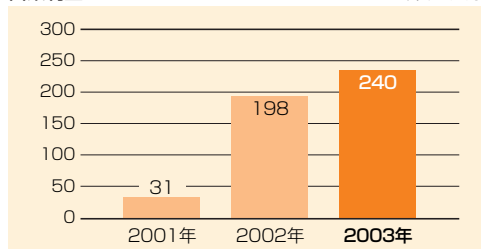
### 情報

公共投資の抑制、デフレ経済下での競争激化による売価ダウンという状況は引き続いておりますが、新紙幣対応ATMの需要増加、カラープリンタの欧米での販売好調もあり、外部顧客向け連結売上高は前期比9.1%増の3,603億円となりました。営業損益については、売上の大幅な増加や調達コストの低減などにより、前期の198億円の利益に対し240億円の利益へと改善しました。

外部顧客向け売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



### 主なトピックス

#### 業務効率の向上を図る情報システム・サービスを提供

情報システム分野の柱である金融ソリューション事業におきましては、業務の効率化を支援するソリューションを業界に先駆けて数多く提供しています。営業店ソリューションでは、柔軟な業務変更が実現できる次世代営業店端末「GS21」、また営業店端末などと連携する統合現金管理システム「CM21」を開発し、複数の金融機関に納入いたしました。バックヤードソリューションでは、事務集中システムを各支店が共同利用し、かつ為替処理や印鑑照会などの事務効率を向上させる、業界初の「統合事務集中センターソリューション」を開発いたしました。またCTIサーバ「CTstage<sup>®</sup>」をベースとした「大規模コールセンターシステム」を大手保険会社に納入するなど、金融機関向けの情報通信融合ソリューションを積極的に提供しています。

ATM事業におきましては、2004年秋の新紙幣発行に向けたATMの改造・リプレースを着実に実施するとともに、コンビニエンスストア向けATMでも売上を伸ばしました。新製品としては、当社の技術



# Information Systems

力を活かし、中国市場向けに業界最大の紙幣容量でかつ紙幣還流方式に対応した「ATM21S」を開発いたしました。

e金融におきましては、エレクトロニックコマース事業者向けに安全性の高いネット決済サービスを追加いたしました。インターネットバンキング決済を簡単に導入できる「e振<sup>TM</sup>決済サービス」は、サービス開始1ヶ月で利用業者が100社を突破し、好評を博しています。また、2003年12月からビザ・インターナショナル、マスターカード・インターナショナル、JCBが提供する最新の本人認証サービス標準に対応したクレジット決済サービス「eクレ決済サービス」の提供も開始いたしました。



VisualCast<sup>®</sup>-SS

情報ソリューション事業におきましては、e-Japan戦略に基づく官公庁向けの大型プロジェクトがスタートし始め、人事・給与に関連した情報システムの設計を複数企業体で受注いたしました。また、ブロードバンドIPネットワークの普及に伴い、VoIPシステムやコールセンタ、映像監視システムの活用が進んでいます。200ヶ所以上に高品質なライブ映像配信が可能なMPEG-4による映像監視システム「VisualCast<sup>®</sup>-SS」を発売いたしました。さらに、本システム of 中国市場への展開に向けて、中国電子系统工程総公司と提携しました。



e-チェックインシステム

今後重要性が一層増すセキュリティシステムにつきましても、当年度より海外展開を開始したアイリス認証システムがフランクフルト空港の入出国審査で利用されています。また、チケット発券技術と顔認証機能を融合した「e-チェックインシステム」が成田空港で運用されています。

プリンタ事業におきましては、シリアル・インパクト・プリンタでは、世界トップクラスのシェアを有しておりますが、カラー・ノン・インパクトプリンタの分野におきましても、LED光源方式による低価格カラープリンタなどの新製品投入により、欧米において急速にシェアを高めました。



MICROLINE<sup>®</sup>5000シリーズ

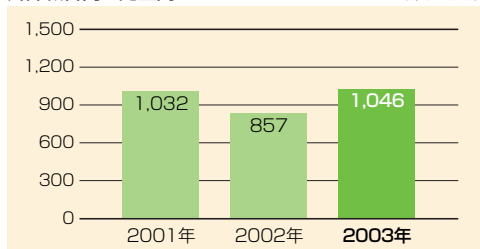
## ● セグメント別概況(連結) ●

### 通信

通信事業者については地域IP網の拡充、IP電話やブロードバンド対応通信システムへの投資が拡大傾向であることに加え、企業による情報通信関連の設備投資の一部にも回復の兆しが表れたことから、外部顧客向け連結売上高は前期比22.0%増の1,046億円となりました。営業損益については、事業の再構築による大幅な固定費削減により、前期82億円の損失に対し34億円の利益へと改善しました。

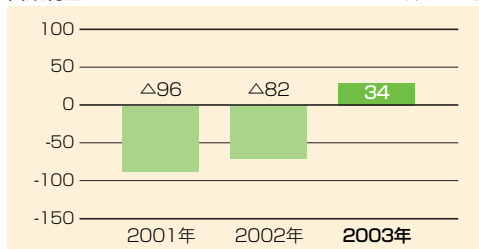
外部顧客向け売上高

(単位:億円)



営業利益

(単位:億円)

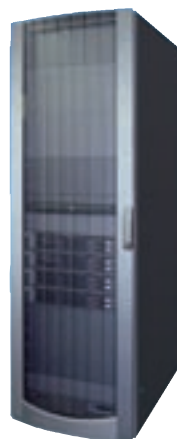


### 主なトピックス

#### VoIP市場をリードする高い技術力を駆使した商品を展開

他社に先駆け1996年度よりVoIP技術を使った商品の提供を開始し、IP電話市場をリードし確固としたポジションを確立しています。当期は新たに、通信事業者の050番号を利用したIP電話サービスに対応するアダプタや、SIP(Session Initiation Protocol)対応のVoIPゲートウェイの販売を開始いたしました。また、従来の電話の2倍以上の音声帯域をカバーし、固定電話の音質をはるかに超えた臨場感のある会話を可能にした多機能電話機「e音(いい音)IPフォン™」や、SIPを利用しVoIPとWebアプリケーションを連携するアプリケーションプラットフォームとしてのサーバ「CenterStage® AS」を発売し、ブロードバンド時代の新たな情報通信融合商品を他社に先んじて提供しています。さらに、Microsoft .NET上で大規模IP-PBX機能と基幹業務アプリケーションを融合させる「IP CONVERGENCE® Server SS9100」を発売し、企業の経営効率向上への貢献をめざしています。

また、企業ユーザと通信事業者にIP電話導入に関するサービス全般



IP CONVERGENCE® Server SS9100

# Telecommunication

をワンストップで提供する「IP電話普及推進センタ (IPTPC®)」では、IP電話システムに対するセキュリティサービスや音声常時監視サービスをメニューに追加し、サービスをより拡充しました。また、日本電気株式会社と協力関係を確立し、IP電話に関する教育・資格試験プログラムを拡充し、教育対象範囲を広げました。



IP電話普及推進センタ (IPTPC®)

1996年より販売している情報通信融合の先駆商品であるCTIシステムサーバ「CTstage®」の最新モデル「CTstage® 4i for .NET」ではIPコンタクトセンタ機能を大幅に拡大し、IP電話サービス網との接続やASP型コンタクトセンタのニーズへ対応しています。今後CTIベースのコンタクトセンタの需要が大きく見込まれる中国市場に対しても販売を開始いたしました。



CTstage® 4i for .NET

映像配信システムにおきましては、ブロードバンド映像配信に最適な映像圧縮技術MPEG-4 ASPを採用した「OKI MediaServer V5」にIPv6対応版を追加し、今後増えていくIPv4/IPv6混在ネットワーク市場での需要に応じています。また、MPEG-4 ASPの高品質な動画像をテレビに接続して再生するブロードバンド対応のセットトップボックス「StreamingPlayer®」を発売いたしました。



OKI MediaServer V5

さらに、ブロードバンドサービスの基盤となる光アクセスシステムとして、業界最速となる1Gbpsでの伝送を実現するギガビットイーサネットPONシステム「MileStar™ BM1400シリーズ」を通信事業者向けに販売を開始いたしました。

Microsoft .NETはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。



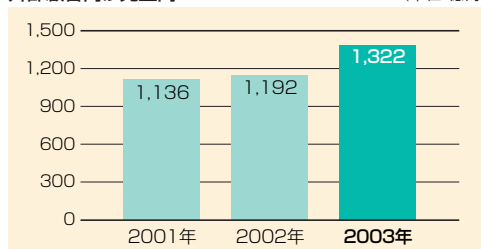
MileStar™ BM1410

## ● セグメント別概況(連結) ●

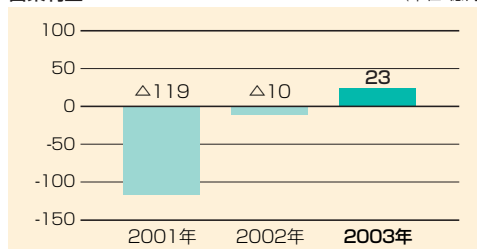
### 電子デバイス

半導体市況は全体に回復基調にあり、なかでも当社の得意とする「パーソナル・モバイル」市場は、中国の携帯電話・PHSの需要拡大や世界的なディスプレイ機器のフラットパネル化の浸透により、堅調に推移しました。しかし、宮城北部の2度にわたる地震により宮城沖電気(株)の生産ラインが一時的に停止したことや急激な円高ドル安の進行により、外部顧客向け連結売上高は前期比10.8%増の1,322億円にとどまりました。営業損益は、光コンポーネント市場での低迷の影響から、前期の10億円の損失に対し23億円の利益にとどまりました。

外部顧客向け売上高 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)

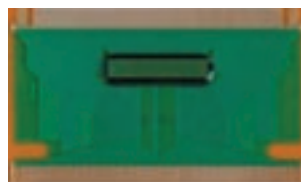


### ■ 主なトピックス

#### 中国市場向け製品、液晶ドライバLSIが好調に推移

主な商品といたしましては、GSM携帯電話用音源LSIの売上が中国市場を中心に前年度比3倍強と大きく伸ばしました。PHS用ベースバンドLSIも中国市場での成長を背景に前年度比3倍弱の売上を達成いたしました。また、液晶ディスプレイ用ドライバLSIではPCモニタ用LCD向け、大型液晶テレビ向けがともに好調で、売上は前年度比でほぼ倍増いたしました。

商品開発におきましては、今後も市場の大幅な拡大が期待される大型液晶テレビ向け高性能ドライバLSIを商品化し大手パネルメーカーへの出荷を開始いたしました。このほか、SOI-CMOS技術を用いて高感度と低消費電力の両立を図った電波時計用検波LSIを開発いたしました。また、大容量P2ROMの開発も順調に進んでおります。2004年度はこれら新商品の売上の大幅な伸びが見込まれます。



LCDドライバ

# Electronic Devices

生産面におきましては、2002年に包括提携を行い既に委託生産中のUnited Microelectronics Corporation(UMC)グループに加え、当社の技術供与先である上海Grace Semiconductor Manufacturing Corporation (GSMC)に対しましても委託生産を開始いたしました。GSMCにおきましてはARM® CPUをコアに採用したμPLAT®ベースのシステムLSIの生産が順調に立ち上がっております。



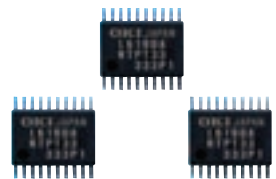
上海GSMC初出荷

光部品事業におきましては、通信バブル崩壊以降市場が低迷していましたが、ブロードバンドの普及に伴いメトロ向けの市場において通信の大容量化が進んできています。この大容量化の動向に対応いたしました光通信用ファイバモジュールや高速LSIを開発し、販売を開始いたしました。

ARM® はARM Limitedの登録商標です。



電波時計用ワンチップLSI



長波標準電波受信LSI



音源LSI